

# 月刊 やちまなこ

2025.12.15 発行

No.337

## 12 月号

釧路湿原国立公園

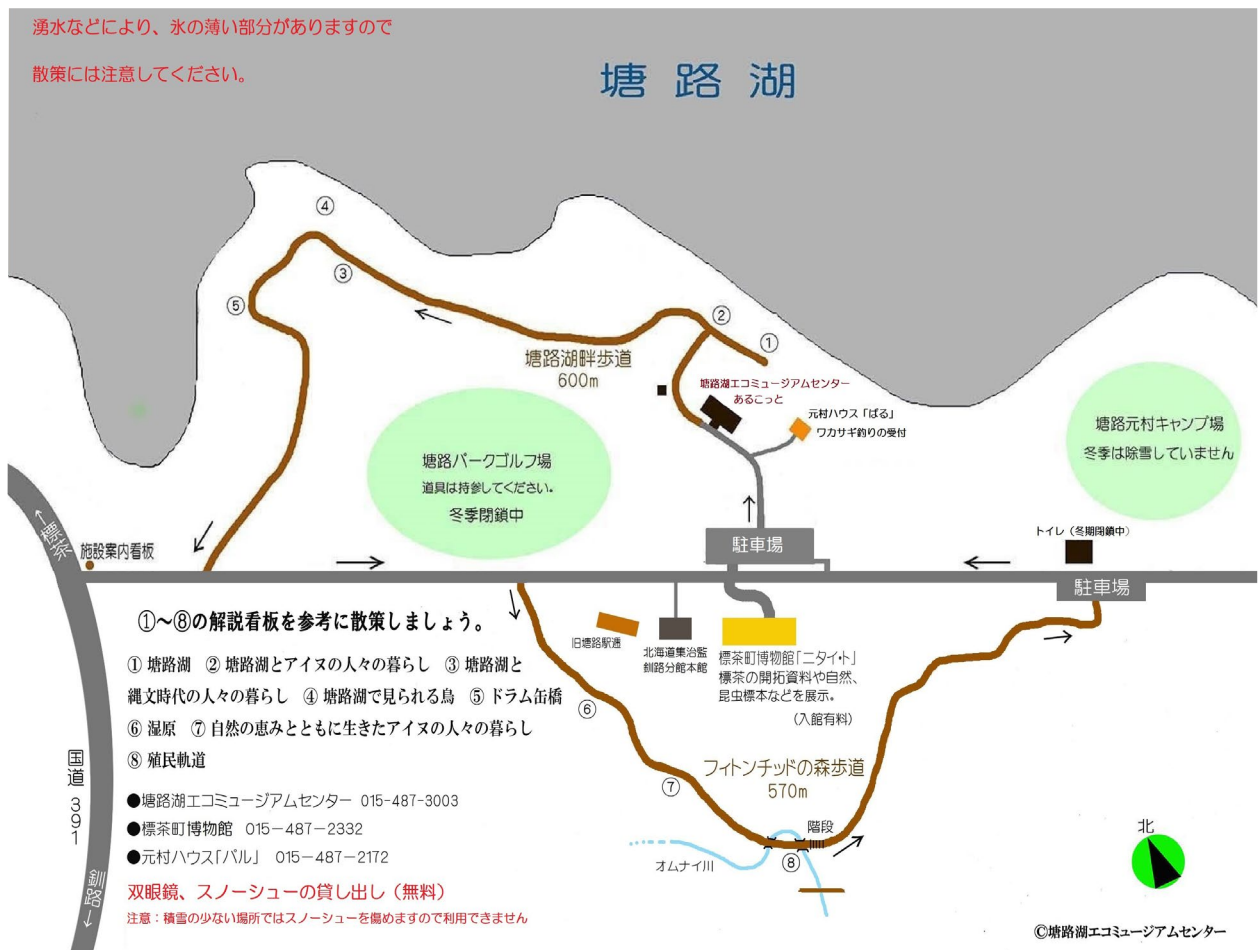
塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより



### 塘路湖 初冬の虹

真昼に強い通り雨があったが、陽が差したタイミングで太陽と反対の方向に雨雲が残っていたため虹が出現した。初冬の雨は時雨と呼ばれ、それにより現れる虹であることから「時雨虹」ともいう。これが雪の場合だと虹は全く発生しない。

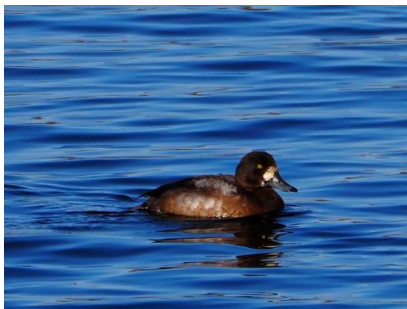
虹が消えゆくタイミングで東の方向からカワアイサの集団が追い込み漁を仕掛けてきた。狙いはワカサギ。鳥にとっては塘路湖が結氷するまでの期間が漁期であるが、結氷後は人間が代わってワカサギを狙う。



## 塘路フィールドノート【11/15～12/14】

### 【野鳥】

少しずつ冬の気配がやってきて、気温低下にともない湖面が凍る場所もちらほら。本格的な冬将軍到来前の、栄養補給の拠点のようで渡り鳥たちが賑わいを見せていましたが季節外れの鳥も。



スズガモ（塘路湖）

海岸に近い湖沼では大群が見られる。丸飲みした貝を胃で貝殻を砕く。カモ科



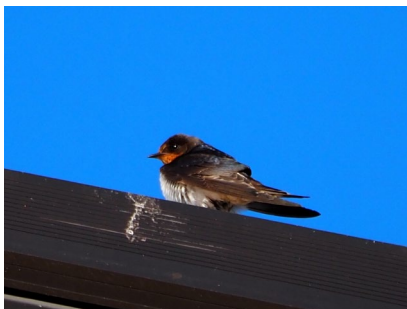
オオワシ（塘路湖畔）

威風堂々。カラスがちょっかいしようが人間が近くを歩こうが微動だにせず。タカ科



ミコアイサ（塘路湖）

結氷する前の湖面で盛んに潜水を繰り返す。巫女が語源だがオスが白黒になる。カモ科



ツバメ（センター周辺）

夏鳥が11月下旬にセンター近くを飛翔。本来ならもっと南にいるはず。ツバメ科



タンチョウ（塘路湖岸）

酷寒の塘路湖やコッタロ周辺で越冬する少数派。国道にかなり近い岸にいた。ツル科



オジロワシ（塘路湖）

青空に舞う姿はオオワシとともに冬の塘路湖の風物詩である。一部留鳥。タカ科





**アオサギ、ダイサギ（塘路湖）**  
冬でも見かける光景になりつつある。並んでいると大きさの違いがわかる。サギ科



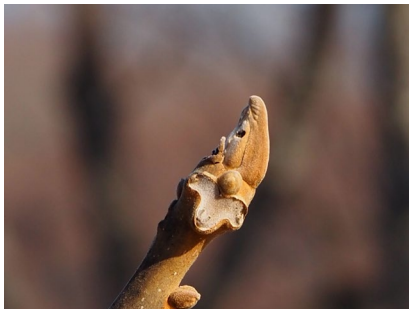
**オオハクチョウ（シラルトロ湖）**  
今年は幼鳥の数多く見られる。やはり畑や水田よりも湖がよく似合う。カモ科



**ヤマゲラ（塘路湖畔）**  
日本では北海道にのみ生息。昆虫、特にアリを好んで捕食する。キツツキ科

## 【植物】

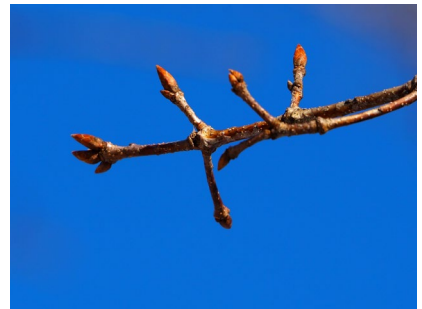
短く感じた今年の秋が終わり、ようやく冬到来の時期。来たるべき酷寒に備えた植物たちの様々な姿が青空に映えます。



**オニグルミ（鬼胡桃）**  
冬芽が裸芽のために乾燥に弱いとされ湿地帯に多く分布。葉痕は羊さんに見える？ クルミ科



**サルナシ（猿梨）**  
新たに出た若い枝は赤みを帯びた褐色が特長。成長につれて赤から灰褐色になる。マタタビ科



**ミズナラ（水栴）**  
冬芽の耐寒気温は -30℃、樹皮に至っては -90℃まで耐えられるとのこと。標茶町の木。ブナ科

## ◎今シーズンはどこで出現する！？～氷丘脈

昨年 12 月中旬に現れたシラルトロ湖の氷丘脈。気温の降下によって出来た氷の亀裂が再度結氷した後、気温の上昇に伴い膨張し、亀裂部分がせり上がる現象。快晴の氷点下が続いたおかげで見事に氷の山脈ができました。「氷丘脈（ひょうきゅうみやく）」と呼ばれます。アイヌ語ではカムイパイクイノカ（神が歩いた跡）。諏訪湖では「御神渡し」と呼ばれる現象ですがこの呼び名は諏訪湖だけに限られるそうです。



昨年の氷丘脈（シラルトロ湖 12 月）

## ◎「ムックリを作ってみよう」を開催しました

11 月 15 日（土）、標茶町博物館との共催で白糠アイヌ文化保存会・大森恵氏を講師に迎えムックリ作りを体験しました。世界各国の口琴を見ながら、音の出る仕組みや根曲がり竹が主な材料であったことなどを知り、どのようなムックリが完成するのかイメージを膨らませました。彫刻刀で竹を削る作業では、音が鳴る仕組みをイメージしながら慎重に削り、振動を響かせるムックリの原型をまず仕上げました。次にいざ音出しです。これは中々に難しく、持ち手の肘を水平に保ちながら手首にスナップを効かせて紐を振動させます。振動を口に響かせるコツを教わり、音色が良くなるよう調整を繰り返し、ムックリを完成させました。

参加者 14 名



## 大盛況！！恒例のクリスマスリース作り

11月29日（土）、6歳から80代までの幅広い年代が参加し、毎年恒例のクリスマスリースを作るイベントを行いました。ヤマブドウやコクワなどの蔓植物を巻いて作った土台に、自然素材や



オーナメント素材を接着して飾り付け、オリジナルのリースを作成。ドライフラワーや針葉樹の葉のまとめ方など講師のアドバイスを受けるながら作業に入ると、参加者のセンスが織り成す個性豊かなリースが形になっていきます。トドマツやニオイヒバをはじめとする緑の素材を中心にしたものや、土台のつる植物の雰囲気を生かしたものなど、多種多様な作品が完成しました。



参加者 13名

## 1月の自然ふれあい行事

事前の申込が必要です。

### アイヌ刺繍講座

〔日 時〕 1月10日（土）11時～15時  
〔定 員・参加料〕 15名 300円（材料費）  
〔開催場所〕 塘路湖エコミュージアムセンター  
◎申込・問い合わせは塘路湖エコミュージアムセンターまで

### 塘路湖氷上スノーシューで氷丘脈（御神渡り）へ

〔日 時〕 1月17日（土）10時～12時  
〔定 員・参加料〕 10名 無料  
〔開催場所〕 塘路湖エコミュージアムセンター  
◎申込・問い合わせは塘路湖エコミュージアムセンターまで

### 湿原アニマルトラッキング

〔日 時〕 1月18日（日）10時～12時  
〔定 員・参加料〕 15名 無料  
〔開催場所〕 温根内ビジターセンター  
◎申込・問い合わせは温根内ビジターセンターまで  
(0154-65-2323)

◆日出・日入時間 11/15(6:15,15:57). 11/30(6:32,15:47).12/14(6:45,15:46)

～指導員の独り言～

■氷丘脈（御神渡り）の出来不出来が気になる季節になった。昨年度はシラルトロ湖で思いのほか立派な氷の造形が出来上がったが、塘路湖では大きさがいまいちであった。やはり氷の厚さが重要である。そのためには低温が続くことが条件だが、わが身には相当過酷だ。厳しい冷え込みによる自然現象と人間に快適な環境は相容れないジレンマだ。そんなことを考えていたら建物をツバメが飛び回っているではないか。君は南方にいないではならないのだよ。いや待て、変化してゆくのも自然というものなのだろう。2026年は変化を楽しもうではないか。  
(M)

### 釧路湿原国立公園

#### 塘路湖エコミュージアムセンター あること

☎ 088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野  
TEL：015-487-3003 FAX：015-487-3004  
E-mail：emc@kushiro-shitsugen-np.jp

Instagram

開館時間：10：00～16：00

（4～10月：17：00まで）

休館日：毎週水曜日 12月29日～1月3日

入館無料